

ii!! TAC パワーアップ大会

2012を開催!!

今年で5回目となるTACパワーアップ大会。TACの活動の定着化も進み、次なる展開が重要になっています。

大会宣言

「抱い手と一緒に、学業ビジョンと豊かな地域を創造します。」
「抱い手へ、JAグループの総合力を發揮した事業活動を提案します。」
「抱い手と一緒に、食の安心・安全を消費者に提供します。」

JA全農は、11月21、22の両日、TACパワーアップ大会2012を神奈川県横浜市の新横浜プリンスホテルで開催しました。地域農業の担い手に向けてJA担当者（愛称「TAC」）を対象とした第5回の全国大会で、522人が参加しました。抱い手に向かい、農業振興に取り組む全国的事例を共有することで、TACの活動のさらなる深化を目指すのが狙いです。21日は、審査委員会によって決定されたJA・TAC表彰式、受賞JAによる事例発表が行われました。22日は、受賞TACによる事例発表、分科会が行われました。

開会あいさつでは、JA全農の中野吉實経営管理委員会会長が「TACが地道に取り組み、活動の成果を評価。今後とも、生産者の農業生産安定を目的としたJAグループの生産資材コストの削減に注力することで、生産者の生産力の強化を推進してまいります」と語り、また、TACの活動を核に、JA後継員が力を合わせて、JAの総合力を發揮することが、JA全国大会で決議した「地域農業戦略の実践」に不可欠な言葉を含め、農林水産省の両宮司生生産振興審議官が、「TACの取り組みは協同組合の原点に立った活動であり、地域農業の振興として全国の模範となるものだ」と話しました。農地プランの作成や、6次産業化の2次・3次産業との連携を加速させるため、生産現場の最前線で働くTACの協力が不可欠であると呼びかけました。

また、公益社団法人日本農業法人協会の伊藤秀雄副会長は、JAグループと協働の理念が共有できることを強調し「日本農業のため、JAグループとの連携の重要性を再認識した」と語り



JA表彰		JA表彰		JA表彰	
宮城県	古川農業協同組合	青森県	津軽みらい農業協同組合	長崎県	島原雲仙農業協同組合
東日本大震災発生後の抱い手の状況把握と、JA内の共有化、またタイムリーな情報案内に努めた。津波に伴う2011年産米の付付生産(飼料用米→主食用米)への誘導などを行った。	園芸生産の拡大として、園芸部門と連携し、抱い手に対する園芸品目別作付に関する意向調査を実施。訪問した抱い手300件のうち、103件が興味を示してくれたため、個別作付提案書を作成し、提案した。労働面・収入面での心配を取り除きやすくなる。新規栽培者の身近な相談者として園芸アドバイザーを紹介しながら、機械のリース・出荷規格の簡便化などを実現させた。契約栽培を含め、抱い手の所得向上に寄与している。	農作物の収穫量を上げたい、生産コストを下げたいという抱い手の要望に応えるため、指導部門と土壌診断に着手。TACが採集した土壌分析数は1,122点(JA全体で1,779点)となった。TAC・営農指導員・全農青森県本部と連携し、従来のわがやうに処方箋を改良。グラフや解説などを加えた処方箋を作成し、その農場に合った肥料がわかるようにした。施肥方法を考えたことで、リンゴの熟度安定・大玉化など、収量の増加・品質の向上が図られ、抱い手の所得向上につながった。	JAの「農業振興支援対策事業」による「リンゴの木合木助」や「UVカットフィルム助成」などの新たな支援を行い、地域農業振興に寄与した。	関連部署(営業開発課・現場の営農センター)と連携を図りながら生産部会を巻き込み、抱い手に対して「農家の手取り向上」[共販向上]「新たな販売ルート」の開設を目指した。全体で111戸の農家が参加し、1,060の契約出荷が実現した。	抱い手への労働力の支援として、「農援隊」を結成。国の補助事業を活用した活動だったが、期限が切れた後は、受益農家の利用料で収支を賄いながら継続させた。結果、抱い手の労働力経費に加え、後継者の育成や地域の雇用が促進され、高い評価を得ている。また、後継者の花嫁対策を含め、地域の活性化を狙い、婚活事業にも着手し、4組の結婚など成果を出している。
JA特別表彰	JA特別表彰	JA特別表彰	JA特別表彰	JA特別表彰	JA特別表彰
滋賀県	レーク伊吹農業協同組合	岐阜県	ぎふ農業協同組合	愛媛県	うま農業協同組合
米集荷向上に向け、収穫前契約(JA・全農・販売先の3者契約)により、一定条件を満たす抱い手に対しては、今年度から非共有方式による柔軟な取組方法を提案。また、労働力確保の要望も強いことから、フレコンによる出荷・産地先集荷の支援を行った。作業の調整設備を持つ抱い手に対して、農産物検査員と連携して作業準備を始めた集荷も推進。検査日を調整しながら、検査の翌日には入金するなどの、抱い手の要望に素早く対応できるようにした。	「農繁期のためJAへ出荷できない」という抱い手の実情や要望に応えるため、TAC自ら直営集荷する体制を確立。また、販売先から挙げられた、業務用需要による良食味・低価格なアイテムへのニーズを踏まえ、晩熟の多収性良食味品種の生産提案と全量集荷を提案した。	米の出荷について、抱い手からの「市中価格での取引」の要望が強かったため、一定の条件を満たす抱い手に対しては、今年度から非共有方式による柔軟な取組方法を提案。また、労働力確保の要望も強いことから、フレコンによる出荷・産地先集荷の支援を行った。作業の調整設備を持つ抱い手に対して、農産物検査員と連携して作業準備を始めた集荷も推進。検査日を調整しながら、検査の翌日には入金するなどの、抱い手の要望に素早く対応できるようにした。	JAの施設内に「四国中央市農業振興センター」を設置。JAの営業部門・市の農業振興課・市の農業委員会・県の農業指導機関をワンフロアにすることで、抱い手の要望・意見に対し、即時対応を実現している。抱い手の育成・特産品の振興・ブランドの育成などにも成果を上げている。	抱い手から要望されていた、地域特産物であるサイメ「伊予美人」の作業軽減化に取り組んだ。栽培面積9%増、作業時間2%短縮、作業体系の管内普及率25%などを達成。抱い手からも高い評価を得た。全農愛媛県本部とも連携し、消費者に対するマーケティングリーダー・販促活動なども実施。抱い手のフィードバックで生産性の向上にも寄与している。	地域で起きる課題の相談先がJAとなり、TACは抱い手の総合窓口として、認知されつつある。抱い手の経営安定のため、米・大豆・中心の経営から、野菜などの特産物の生産を加えた多角経営化を推進している。経営の高度化として、集落営農の法人化に取り組み33法人が設立。また経営の多角化として、加工用キャベツの生産の提案で27戸8.9%が作付されたなど、成果を上げて、抱い手に評価されている。

参加者による分科会

各グループの課題・抱い手の要望や解決策などの一例を紹介しました。

■ 各グループの課題・抱い手の要望や解決策などの一例を紹介しました。

■ 滋賀県 レーク伊吹農業協同組合

抱い手の要望：経営安定をさせたい
解決策：経営改善調査、制度資金の活用
TACは金融の基礎知識を、金融担当者から消費者へ伝える方法、それを基にした出荷手法や形態、販売方法を検討する。検討した内容を抱い手に提案し、消費者ニーズを反映した生産が出来るとのこと。

■ 滋賀県 レーク伊吹農業協同組合

抱い手の要望：農産物の品質を向上させ、顧客を拡大させたい
解決策：消費者動向調査の実施
マーケティング調査を実施し、その分析結果から消費者ニーズをしっかりと把握する。販売現場と検討の場を持ち、消費者ニーズを把握し、伝える方法、それを基にした出荷手法や形態、販売方法を検討する。検討した内容を抱い手に提案し、消費者ニーズを反映した生産が出来るとのこと。

■ 滋賀県 レーク伊吹農業協同組合

抱い手の要望：生産コストを下げたい
解決策：土壌診断結果を基にした施肥設計の実施
土壌診断結果を基にした施肥設計を実施する。収量や品質、生産コストに大きく影響した。営農指導員や購買部担当者や同行訪問し、抱い手の意向を確認するとともに、効果的な結果の検証を行う。見た目の価格だけでなく、検証結果をもとにした効果の持続性や経済性、省力効果を加味した商品提案につなげる。

■ 滋賀県 レーク伊吹農業協同組合

抱い手の要望：生産コストを下げたい
解決策：土壌診断結果を基にした施肥設計の実施
土壌診断結果を基にした施肥設計を実施する。収量や品質、生産コストに大きく影響した。営農指導員や購買部担当者や同行訪問し、抱い手の意向を確認するとともに、効果的な結果の検証を行う。見た目の価格だけでなく、検証結果をもとにした効果の持続性や経済性、省力効果を加味した商品提案につなげる。

連携のポイント(参加者の意見)

TAC部門が他部門と連携を図るため、TACが抱い手の「経営意図」や「将来展望」を正しく把握すること。把握した内容を整理し、関係する部門担当者と共に、同行訪問を実施すること。同行訪問した内容を整理し、事業に着手すること。抱い手に事業提案した内容の結果について検証し、次に活かすこと。

「抱い手が自立しました。TAC個人だけでなく、この4点を他部門と協力しながら組織として動くことができた。部門連携のポイントと感じている。TACは動くことができた。」

また、活動成果を残すために「個人として」知識「発信」し、動員が必要という声も聞かれました。



TACの役割

TAC(タック)とは、地域農業の担い手に出会う「JA担当者」の役割です。

① 地域農業の担い手に訪問して、抱い手の要望を聞き、誠実に伝え、抱い手とTACが協働して活動を進め、抱い手の経営に役立つ情報を提供します。② 地域農業の担い手の意見を、JAグループの業務に活かします。

TACの由来

TAC(Tack)は、Tack(タック)が由来です。

京都府 京都やましろ農業協同組合 北部営農経済センター 抱い手支援課 相木 隆夫氏 抱い手の信頼の向上と販路拡大に向けて 抱い手から小松菜とホウレンソウの販売強化を要望され、新規販売の開始を行った。全農京都府本部と連携し、ニーズに合った品種提案や栽培や軟弱野菜などの強化。抱い手から「販売についてはJAに任せてほしい」と評価されるようになった。	滋賀県 グリーン近江農業協同組合 営農事業部 営農企画課 河並 健太郎氏 水田野菜の提案 農業法人からのニーズを受け、水田での野菜栽培による地産地消の取り組みを提案した。地元スーパー等の県内需要に向け、加工用キャベツの契約栽培や軟弱野菜などの面積を拡大。抱い手からは6次産業化後継者育成にもつながった」と評価を受けた。	静岡県 とびあ浜松農業協同組合 東・中央営農センター 植松 千晶氏 生産者ニーズに応えた施肥設計 大規模な生産者への継続的な訪問から、施肥労働力の軽減が必要と判断。施肥設計の改善提案として即効性のペレット肥料への切り替えによる省力化を提案した。結果、地域のファン作りが成功し、量販店の販売が定着。抱い手に安定した販売を提供できた。
熊本県 八代地域農業協同組合 経済事業本部 経済渉外課 課長代理 秋永 誠一郎氏 TAC活動の「見える化」へのチャレンジ 担当するアコム、イ草、水稲の抱い手の情報について組織の横断として重要が見える化(表紙)の取組を推進。前年比で生産者5人増、栽培面積50%増、販売額500万円増を実現した。抱い手の収入拡大に向け、市場外出荷や大消費地での調査も行った。	愛媛県 越智今治農業協同組合 営農販売部 営農指導課 八木 陽子氏 JAおちいまほり産甘とうろし「甘とう美人」の産地化と消費促進活動 産地地産地に関する抱い手の要望を受け、甘とうろし「甘とう美人」の産地化と地元での消費促進活動を開始。前年比で生産者5人増、栽培面積50%増、販売額500万円増を実現した。抱い手の収入拡大に向け、市場外出荷や大消費地での調査も行った。	鳥取県 いずも農業協同組合 営農部 総合指導課 高橋 恵子氏 土壌分析を基にした土壌診断と肥料提案、肥料講習会の開催 抱い手の定期的な訪問活動から、土壌診断を基にした栽培提案が必要と判断。土壌診断の結果と土壌に対する知識の高まりを基に全農鳥取県本部と連携して開催した。肥料に関する情報提供や、抱い手の土づくりに関する意識啓発、施肥の効率化につながった。
福島県 新ふくしま農業協同組合 営農部 農業振興対策室 渡辺 智由里氏 安心・安全を確保する農家と消費者のつなぎ役 JAの農産物販売促進協力員(新ふくプレゼンテーションSPL)の一員として、農産物販売活動に取り組んだ。現場を知るTACとして、農家の安心・安全な農産物づくりの取り組みを消費者にPRした。消費者の反応やニーズを把握し、抱い手に還元するなどで、桃などの出荷量を伸ばした。	山形県 天童市農業協同組合 営農販売部 抱い手支援TAC・農地集積推進課 山口 輝氏 手取り増加を目的とした早期収穫・出荷可能な新品種導入・助成事業の提案 出荷単価の高い時期に対応した長ネギ新品種「ホワイトサマー」について、生産から販売まで提案。抱い手の費用軽減のため、果樹の抱い手支援対策を有効に活用した。「王将ねぎ」としてブランド化し、JAの販売実績に貢献した。品質面での市場評価も高く、抱い手の経営改善にもつながった。	秋田県 秋田しんせい農業協同組合 中央部営農センター 副調査役 小松 世氏 エリア化体制での情報収集と意見・要望・提案情報連携の活用 エリア化による営農部門の統廃合によって、営農指導に対する抱い手の不安感や抱い手の意見・要望への対応の遅延を危惧。そこで、「情報連携結果」などを活用し、他部門とも連携しながら、TACが迅速に対応できる体制づくりに取り組んだ。具体的な提案活動も実施し、抱い手との信頼関係を構築した。
宮城県 栗こ農業協同組合 営農部 畜産センター畜産販売課 課長補佐 佐藤 吉巳氏 「茂洋(しげひろ)」を活用した子牛の販売戦略 地元産子牛の販売高アップの要望を受け、優良種雄牛「茂洋」の交配提案を行なった。肥育生産者に対する意向調査を活用し購入提案の実施で、子牛市場での販売価格向上につなげた。この結果、抱い手の「茂洋」の子牛平均単価、販売頭数とも大幅に伸び、生産意欲の向上、生産基盤の強化にも貢献した。	新潟県 新潟みらい農業協同組合 営農経済部 営農経済課 落合 一彦氏 組合員のJA離れを阻止するために、向くくJA・相談-指導-提案できるTACへ 抱い手からJAが遠くなり、気軽に相談できる存在でなくなった現状をTAC全員で協議。TACの活動を忠実に展開し、これまでの信用関係構築から、消費者ニーズに対応した両面からの活動を実施し、抱い手の収入増につながる提案を実施。根拠強く継続訪問するなどして、抱い手の要望の解決を図った。	兵庫県 兵庫西農業協同組合 営農生活部 営農指導課 係長 竹田 拓二氏 競争意識で栽培技術のレベルアップを図る 地元産業者から「しよゆなどの醸造適性に合った地元産の小麦大豆がほしい」との要望を受けた。関係機関との連携で、実需者ニーズに合った品種の導入や、その品質向上への栽培技術の講習会を実施し、生産技術の向上につなげた。事業活用や販路開拓による経営改善で所得向上、生産意欲も高まった。

福島県 新ふくしま農業協同組合

営農部 農業振興対策室
渡辺 智由里氏
安心・安全を確保する農家と消費者のつなぎ役

山形県 天童市農業協同組合

営農販売部 抱い手支援TAC・農地集積推進課
山口 輝氏
手取り増加を目的とした早期収穫・出荷可能な新品種導入・助成事業の提案

秋田県 秋田しんせい農業協同組合

中央部営農センター 副調査役
小松 世氏
エリア化体制での情報収集と意見・要望・提案情報連携の活用

宮城県 栗こ農業協同組合

営農部 畜産センター畜産販売課 課長補佐
佐藤 吉巳氏
「茂洋(しげひろ)」を活用した子牛の販売戦略

新潟県 新潟みらい農業協同組合

営農経済部 営農経済課
落合 一彦氏
組合員のJA離れを阻止するために、向くくJA・相談-指導-提案できるTACへ

京都府 京都農業協同組合

営農部 南丹広域営農センター 係長
藤井 良氏
新丹波黒大豆の生産振興による向くくJA・相談-指導-提案できるTACへ

静岡県 とびあ浜松農業協同組合

東・中央営農センター 副調査役
植松 千晶氏
生産者ニーズに応えた施肥設計

熊本県 八代地域農業協同組合

経済事業本部 経済渉外課 課長代理
秋永 誠一郎氏
TAC活動の「見える化」へのチャレンジ

全国農業協同組合連合会 営農販売企画部 TAC推進課 TEL:03-6271-8276 URL:http://www.zennoh.or.jp/